

重点目標		(1) 学習評価や授業公開、「高校生のための学びの基礎診断」等を活用して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて 不断の授業改善を推進し、生徒の学びに向かう力を育てる。 (2) きめ細かい生徒面談やアンケートの実施、サポート委員会、『桃kingタイム』等を活用して、いじめ等の予防・ 早期発見に努め、生徒が安心して過ごせる居場所づくりと生徒の絆づくりの環境を整え、生徒の心を育てる。 (3) 専門学科としての本校の教育活動の特色、魅力について校内で共通理解を図り、分かりやすい情報発信を工夫する。 (4) 職員の協働体制を確立して業務の適正化を図るとともに、職員のメンタルヘルスの保持に努める。		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	達成度	評価と課題
PTAとの連携 (総務部)	PTA活動の活性化	(1) PTA活動の活性化	A	(1) PTA研修会では、PTA役員から提案をいただき、PTA、職員、生徒にも参加募集を募り体験型で相互の交流を図りながらの研修が行えた。さらに、創作した作品を文化祭で展示し親しむことができ、高P連主催の「互いに学び楽しくつながるPTA活動」事業にも応募した。 (2) 文化祭のPTA企画として、昨年度に引き続きSDGs活動としてフードバンク、使い捨てソフトコンタクトレンズの回収を行い、良い成果を得ることができた。またフォトスポットも開催し、準備から運営までをPTAと連携を図り、計画的にすすめることができた。
防災組織 (総務部)	防災組織の充実	(1) 避難訓練の充実	A	(1) 9月の第1回の避難訓練では、コロナ禍に伴う時間調整により中断していた地区別集合と点呼を復活させ教員担当・地区班毎に班長を据え、状況把握や訓練を迅速に行うことを目標とし計画立案した。班長への事前指導及び地区別担当教員の采配により、スムーズに行うことができた。2回目は、新企画として学年毎の体験型訓練を計画し12月に実施した。生徒のアンケート結果からは、訓練内容を今後役に立てられそうだと回答した生徒が100%で良い成果を得ることができた。
読書指導 (総務部)	図書館利用の向上	(1) 落ち着いた読書環境の維持 (2) 図書館利用の充実	A	(1) くつろぎながら読書ができるスペースづくりをしたことにより、気楽に読んでいる姿が見受けられ、敷居の高さを低くすることができた。 (2) 文化祭図書館企画「作家の顔&作品名あてクイズ」に、昨年よりも本校生徒数増加、大好評であった。これまで図書館へ来館しない生徒の一部がその後利用するようになった。
学習指導 (教務部)	学びに向かう力の向上	(1) PDCAサイクルによる改善 (2) 学習習慣の定着	B	(1) 学習マネジメントシートを活用し、よかった点・改善すべき点・改善方法等を各教科で検討し、学習指導に生かしている。 (2) 課題による学習習慣は定着していると思われる。課題以外の自主的な学びへの取り組みは低い。
進路指導 (進路指導部)	適切な進路情報の提供と学科に対応した進路指導	(1) 生徒の適性・意欲を考えた進路情報の提供 (2) 進学・就職に関わる情報の提供	B	(1) 全体に向けては、各種ガイダンス・出前講義等で進路意識の向上を図った。個々の生徒に対しては、進路希望先に応じた面接・書類指導等を丁寧に行うことができた。 (2) 本科・専攻科ともに、時機に応じて適切な行事を計画・実施し、将来必要となる進学・就職に関わる情報提供を行うとともに直前期には個別の指導に力を入れた。
生徒指導 (生徒指導部)	基本的生活習慣の確立	(1) 身だしなみを整える (2) 遅刻指導の工夫と徹底	C	(1) スカート丈やリボン・シャツの第一ボタンを何度注意されても整えられない生徒がいる。口頭注意だけでは改善できていない。継続して粘り強く指導していきたい。 (2) 例年同様、立哨指導と段階指導を行っている。昨年度より減っている。学年が上がるにつれて遅刻が多くなっている。一部の生徒ではあるが、電車の遅延や体調不良による遅刻が増えている。
特別活動 (生徒指導部)	特別活動の充実	(1) 学校行事の活性化	A	(1) 今年度から体育祭を体育館で実施した。熱中症対策としては非常に良かった。生徒会や桃花の生徒・教員と種目を考えたが、おおむね良好であった。文化祭もコロナ前と同様に桃花と実施することができたが、コロナ前を知らない教員も多く打ち合わせがあまりうまくいかなかった。今年度の反省を活かして次年度に繋げたい。
交流推進 (生徒指導部)	桃花校舎との交流推進	(1) 桃花校舎との交流推進	A	(1) 文化祭・体育祭ともにコロナ前の形で一緒に実施することができた。一緒に頑張ったり、互いに応援したりする姿が見られ生徒・職員ともに好評だった。給食交流は1年生のみ実施できた。おおむね好評であった。来年度は2・3年生も含め、1学期からできるとよい。
学校保健 (保健厚生部)	ヘルスプロモーションの実践	(1) 保健委員会活動の充実 (2) 教育相談の工夫	A	(1) クラスメートの健康管理、季節に合った健康課題をテーマに保健だよりの作成、歯の健康教室のサポート等保健委員としての自覚を持ち活動することが出来た。 (2) 学校生活に不適應をおこす生徒が助けを求めることが出来るよう、より多くの教職員が関わりを持つことが出来るようサポート委員会、SC利用など支援体制の充実を図りたい。

環境美化 (保健厚生部)	美化活動の充実	(1) 美化活動の充実	B	(1) 教室棟のトイレの改修工事(手洗い場の造設)に伴ってトイレの清掃道具入れがなくなったため、清掃方法を一部変更した。また工事が終了したことで粉塵による汚れが減ったが、廊下や階段といった共有施設の清掃活動を丁寧に実施するように意識的に働きかけた。今後も美化活動を継続していきたい。
ヒューマン ケア科	教育活動の工夫と充実	(1) 学びの基盤の形成 (2) 専門的学習の充実	B	(1) 本年度も幅広い学習に繋げていけるよう、社会人講師による授業を多く実施し、ボランティア講座、認知症サポーター講座、点字講座、口腔ケア講座等の実施となった。また本年度は介護職に就く卒業生を講師として招き、2年生対象に介護施設の概要を説明していただき、生徒との交流を図ることができた。また、ボランティア活動への関心が高く通年ボランティアを継続して単位を取得した生徒が増えてきている。 1年生は11月に大学見学を実施することができた。2年生は、哉志の会に前向きに取り組み、それぞれの将来の方向性や校外実習への思いを述べることができた。続く校外実習は熱心に取り組むことができ、成長がみられた。 3年生の障がい者施設実習、保育実習は施設の協力で全員実施できた。 (2) 高大連携「大学まるごと授業体験」がコロナ後に復活し、多数が意欲的に参加し、秘書技能検定では1・2年生が多数取得となった。また、課題研究発表会では、個々の課題に対し真摯に取り組む、発表をすることができた。
衛生看護科	学びに向かう力の育成と豊かな人間性を育む指導	(1) 教科指導の充実 (2) 将来の医療職の担い手として、看護の心や倫理観の育成	B	(1) 単元ごとの小テストを行い、各教科において知識の定着を図ることができるようにした。技術の習得に向けて、各学年で実技テストを実施した。実技テストの結果を踏まえ個別指導を行い、技術の定着を図った。看護に対する興味・関心が高まるように授業の工夫を図っていききたい。 (2) 今年度は病院での実習を行うことができた。学内での学習や臨地実習などいろいろな場面を通して、人間性と感性を育み、質の高い看護師になることができるよう働きかけていくことが必要である。
第1学年	基本的な生活習慣の確立と基礎学力の向上	(1) 礼儀と節度ある行動の励行 (2) 基礎学力の向上	B	(1) 明るく元気に挨拶をすることができた。毎日の清掃活動にも積極的に取り組むことができた。少しずつ次に何をすべきか考えて行動できるようになってきた。 (2) 普通科目、専門科目ともに都度の小テストや実技テスト、定期考査を目標にコツコツと学習に取り組む生徒が多くなってきた。受け身の学習だけではなく、自ら積極的に考え取り組む姿勢をさらに育てていきたい。
第2学年	学校生活の充実	(1) 環境整備 (2) 日常的な学習の定着 (3) 行事、部活動への積極的な参加 (4) 進路指導の充実	B	(1) ロッカーの上の整理整頓はできるようになってきている。 (2) 試験前の勉強、レポートの作成は日ごろからできているが予習、復習までは手が回らない生徒がまだまだ多い。 (3) 体育大会では2クラスが協力して取り組み成果もあげることができた。 (4) 進路希望調査を通して生徒の進路意識の高揚を図っている。また、分野別の進学説明会でより具体的な学校名も考えられるようになってきている。
第3学年	進路目標の実現	(1) 進路指導の充実 (2) 専門技術の習得のために、自主的に学習できる資質の育成	B	(1) 3年A組は希望した進路にほとんどが進学することができたが、進路決定後、学校の推薦の生徒も欠席や遅刻が目立ち、学校生活の指導に工夫が必要であった。 3年B組は専攻科の進級に向けて不安のある生徒もいるが、全員専攻科への進級を希望している。 (2) 3年B組は臨地実習を意欲的に取り組むことができた。
専攻科	進路実現	(1) 国家試験対策の実施 (2) 就職・進学指導の充実	B	(1) 各クラスにおいてST等利用し、学習時間を設けて学習を実施。また4月当初1年間を見通して模擬試験を計画。試験ごとに各自振り返りを行い、模試結果をふまえて各自の学習方法について指導を行った。 (2) 専攻科1年生については年度初めから面談やガイダンスを実施し、進路を考える機会を設けた。6月には対面で修了生との懇談会を行い、先輩の話を直接聞くことで自らの進路を具体的に考えるよう働きかけた。インターンシップや説明会への参加に繋げ、行いたい看護を考えながら就職先の選択を行ってきた。 専攻科2年生は、年度の始めに採用試験が行われることが多いため、その取り組みをスムーズに進めていくことができるよう個別対応を行い、就職先の内定に繋げることができた。進学希望者もそれぞれのスケジュールに従い、学習や受験の準備を進めていき進学先の決定に繋がっている。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		(1) 授業改善が進み、生徒の学びに向かう力を育てることができたか。 (2) 生徒が安心して過ごせる場所としての環境を整えることができたか。 (3) 学校の特色・魅力についてわかりやすい情報発信ができたか。 (4) 職員の協働により業務の適正化が図れ、職員のメンタルヘルスの保持ができたか。		

イ 学校関係者評価結果

学校関係者評価項目	(1) 授業改善が進み、生徒の学びに向かう力を育てる。 (2) 生徒が安心して過ごせる場所としての環境を整える。 (3) 学校の特色・魅力についてわかりやすい情報発信をする。 (4) 職員の協働により業務の適正化が図れ、職員のメンタルヘルスを保持する。
学校関係者評価	(1) ICTによる授業ができるようになってきており、授業改善が進んでいる。学習アンケートの結果からも授業内における理解はおおむねできている。学びに向かう姿勢を育てて欲しい。 (2) 担任による面談、いじめアンケートや適宜行われるサポート委員会がよく機能し、生徒の問題解決や生徒の絆づくりができている。 (3) ホームページ等を活用して体験入学、特別活動、社会人講師授業、出前授業などの掲載を行ったり、戴帽式や志の会など本校特有の学校行事を地元メディアや市広報広聴課への情報提供を行ったりすることができた。 (4) 時間外勤務時間の改善が見られた。改善を更に進めたり、安全衛生委員会を毎月開催したり、定時退校日を設定したりするなど、職員のメンタルヘルスの保持に努めて欲しい。
学校関係者委員会の構成及び評価	・構成 学校評議員6名（PTA会長を含む） ・評価時期 7月、11月、3月

(5) 学校経営管理上の問題点等

ア あいちラーニング推進事業重点校1年目として授業改善に取り組み、一定の成果が見られたが、十分とは言えず、さらに改善を進めていく必要がある。

イ 生徒が興味関心を持ちながら高度な専門知識を理解しやすくする授業改善に取り組んだり、生徒が主体的に学習に取り組むような仕掛けを作る必要がある。

ウ ICT支援員により、教員のICTに関する知識や技術が向上したが、更に図る必要がある。知識・技術の向上には多くの時間がかかるため、より多い回数の教員向けの実習・研修を行う必要がある。

エ 生徒への支援はサポート委員会などを通して現在のところ対応できている。生徒同士の人間関係や家庭での問題を抱える生徒は増加傾向にあるため、更なる体制の強化が必要である。

オ 本校の教育活動の特色や魅力について多くの情報をホームページで発信できた。情報発信できる技術を多くの教員が身に付けていく必要がある

カ 行事や活動がコロナ禍において制限されてきたが、活発に行われるようになった。これから、新しい体制で行事を作り出していく必要があり、綿密な計画が必要となる。

キ 教員の業務・学校行事の精選・見直しと言われる中で、精選・見直しを行って、改善できているが十分とはいかない。特定の時期に多くの負担がかかり、健康を害する危険性があるほど在校時間が多くなってしまった教員もいる。業務の効率化と精選・見直しを引き続き行う必要がある。